

平成 27 年度 第 5 回 羽曳野市総合基本計画審議会 記録

日 時	平成 28 年 1 月 24 日 (日) 13:00~15:00
場 所	羽曳野市役所別館 3 F 会議室
出席者	<p>会 長：吉川 耕司 (大阪産業大学人間環境学部教授)</p> <p>副会長：木村 眞知子 (婦人団体協議会代表)</p> <p>第 1 号委員 (市議会議員)：今井 利三、笠原 由美子、嶋田 丘、日和 千賀子、松井 康夫、吉田 恭輔</p> <p>第 2 号委員 (学識経験者)：大関 雅弘 (四天王寺大学エクステンションセンター長)、奥田 邦晴 (大阪府立大学学長補佐)、山内 孝幸 (阪南大学副学長)</p> <p>第 3 号委員 (市民代表)：上田 信彦 (市民ワーキング会議代表)、内本 和彦 (教育委員会代表)、塩野 良一 (社会福祉協議会代表)、堂山 幸作 (農業委員会代表)、富谷 秀直 (四天王寺大学学生)、中山 直子 (市民ワーキング会議代表)、増田 博 (健康づくり推進協議会)</p> <p>事務局 羽曳野市…白形理事、南口課長、道旗課長補佐、菅原主幹、内本主幹、升本主幹 ランドブレイン株式会社…山北、松本</p>
次 第	<p>(1) 開会</p> <p>(2) 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメントの結果と市の対応案について</li> <li>・基本構想 (答申案) について</li> <li>・答申書 (案) について</li> </ul> <p>(3) その他</p> <p>(4) 閉会</p>
配布資料	<p>(資料 1) 第 6 次羽曳野市総合基本計画基本構想 (答申案)</p> <p>(資料 2) 答申書 (案)</p> <p>(参考資料) パブリックコメントの結果と市の対応案について</p>
<p>■議事概要</p> <p>(1) 開会</p> <p>会長あいさつ</p> <p>吉川会長：本日は第 5 回審議会ということで、最後の審議会となる。今更言うまでもないが、総合基本計画は、市の最上位計画であり、職員の方もこの計画に記載されている方針に基づいて働くことになり、市民もこの計画に書かれていない内容を市に頼むことはできない。そういった大事な計画である。これまでの審議を経て、いいものに仕上がってきていると思うが、今一度ご確認いただき、間違いのないものが完成すればよいと考えているので、本日も慎重な審議をお願いします。</p>	

## (2) 議事

吉川会長：それでは次第にしたがって議事を進行していく。今日の議事は3件あるが、まずは1件目のパブリックコメントと市の対応案について、事務局より説明いただき、確認をしたい。

《(参考資料1)パブリックコメントの結果と市の対応案について事務局より説明》

吉川会長：1人の方から、3件のコメントがあり、それに対しての市の考え方を説明いただいた。みなさんはどう思われるか。基本構想は、具体化すると固定化するので、表現としては概略的なものとならざるを得ない。その中で、いただいたご意見をどこまで反映できるかが難しいところである。

嶋田委員：基本構想に入れ込むということではないが、意見は意見として、将来の羽曳野市のまちづくりを生かしてもらえればよい。基本構想と同時期に、都市計画マスタープランのパブリックコメントを実施した結果、約20件の意見があり、土地利用に関するものが主であったと説明があった。今日でなくてもよいが、どのような意見が出されたのか、概略でもよいので示してもらえるとよいと思った。もう1点、市の対応方針については、意見を出された方に回答されるのか。

事務局：都市計画マスタープランのパブリックコメントについては、意見をまとめて、市の対応方針とともに、ホームページや情報公開コーナーで公表する予定である。総合基本計画のパブリックコメントについても、同様の手続きを考えており、個人の方に直接回答するのではなく、パブリックコメントに対する回答として公表することを考えている。

吉川会長：意見の内容としては、人口の問題、古市古墳群の世界遺産登録、緑の保全の3点で、それぞれが基本構想の中に記載されている。基本計画を作っていく際の具体的な中身をイメージしながら、基本構想として間違いがないものにしないといけない。

大関委員：3番目の意見の市の対応部分に、「住宅都市である本市」とあるが、これはどういう概念か。基本構想を読み直してもこの言葉が出てこない。

事務局：大都市近郊のベッドタウンである、という意味で「住宅都市」と記載している。ご指摘の通り、構想の中の文言を使うべきかとは思っているので、検討する。

大関委員：そうであれば、地理的な状況や大阪府の中でベッドタウンとしての役割を担っている都市であるということを、前提のところに記載しておけばよいのではないかと。

吉川会長：「住宅都市」自体があまり使わない文言である。あくまでもパブリックコメントに対する市の回答であるので、審議会としては一字一句こうしろとは言えないが、違和感があるところはお伝えできればと思う。

上田委員：3つ目の意見にある羽曳が丘は、ゴルフ場跡地が住宅地となり、高速道路ができるなど、緑が減ってきている。緑豊かな住環境とは石川より東側の地区を指しており、そういったことを含めて記載してはどうか。

事務局：ご意見は具体的な地域についての意見を述べたものだったが、市からの回答としては、総合基本計画の中で市全体として「緑豊かな住環境」のあり方をどのように考えるかを答える必要があり、あえて地域名は避けた形で回答している。

吉川会長：意見に対して市全体の話として答えるスタンスだ、と言われればそれまでなのだが、意見

が特定の地域についてのものなので、地域について回答してもいいのでは。

嶋田委員：土地利用に関する意見であり、都市計画マスタープランの方に反映させてはどうか。

事務局：総計あてのご意見なので、総計として回答するが、都市計画課とも情報の共有はしており、市の対応案についても確認してもらっている。また、都市計画マスタープランのパブリックコメントでも、同様の意見をいただいているとのことなので、それについては、都市計画マスタープランのパブリックコメントとして回答する形となる。

笠原委員：市の対応として、一地域だけに照準を合わせた形では答えにくい、ということは理解できるが、「住宅都市」という言葉の違和感と、たった4行で説明してしまっていることに引かかるので、これまで基本構想について論じてきたことをここに加味して、もう少し丁寧に説明すればよいものになると思う。

吉川会長：書いてある内容はその通りだと思うので、あとはしっかりと書いてもらえればいいと思う。市の対応としてはこう書いて、基本構想の修正には至らないとしても、それで終わりではなく、都市マスとの調整など、繋げていただきたい。

それでは、基本構想（答申案）について、まずは事務局から説明をお願いします。

《（資料1）第6次羽曳野市総合基本計画基本構想（答申案）について事務局より説明》

吉川会長：最初に、24頁の将来像の「はびきの」が漢字となっているので修正をお願いします。他にご意見があればお願いします。

上田委員：24、26、27頁の図については、反時計回りとなり見やすくなった。一点、字句の修正があり訂正をお願いしたい。4頁（2）頻発する自然災害、「復興に長期に渡る」とあるが、「亘る」が正しいのでは。また、7頁の人口・世帯数の推移の図について、見方が分からないので解説願いたい。

吉川会長：7頁のグラフの見方について、補足をお願いします。

事務局：単位の書き方が不十分であるので、修正します。

大関委員：22頁の将来都市構造図が少しわかりづらい。骨格軸については文章の中で触れているが、各拠点についての説明がない。それほどスペースはとれないと思うが、せっかくなので、それぞれの拠点が具体的にどういうものか分かるように記載してもらえれば、羽曳野に住んでいない人にも、分かりやすいかな、と思う。

吉川委員：拠点の名称はつけられているが、確かに、何を示しているのか正直よくわからないところはある。頁数の関係もあるので、空いている部分に、注釈のような形で各拠点の説明を入れてはどうか。

事務局：各拠点については、公共施設や駅をイメージしている。現行の総合基本計画においては、文章中に「交通ターミナル拠点（古市駅周辺）」というように、具体的な施設名を併記していた。同じようにお示しすることはできるかと思う。

吉川委員：しつこくならないように、上手く表現して入れ込んでいただきたい。

吉田委員：古市駅周辺のにぎわい交流拠点は、古市駅だけになっているが、市役所も入れるべきでは。

松井委員：拠点が公共施設をイメージしているならば、それを書き出してやればよい。具体的な公共施設が分かった方がよい。

事務局：ご指摘のとおり、市の地理に詳しくない方が見た場合に、なぜ拠点に位置付けられているのかが分かりにくいと思うので、拠点にあたる公共施設を記載する方向で検討したい。

吉田委員：総合基本計画は近隣市町にも影響のある計画であり、羽曳野という市をもっと知らしめないといけない。市外の人に、羽曳野に何があるのか、もっとアピールをしないとけない。

吉川会長：総合基本計画は基本的には市民に対しての計画なので、内向きなのはわかるが、都市間競争の時代にあって、都市のPRをもう少し頑張ってもよいかと思う。

塩野委員：将来都市構造図は、現在ある施設だけでなく、10年間で集中的に取り組むという方向性を示すものではないのか。健康レクリエーション拠点が3つあるが、小さな地域でたくさんあっても仕方ないのではないのか。

事務局：将来都市構造図では、既存の代表的な公共施設について、その場所を活用してどのような事業を進めていくのかを図示している。健康レクリエーション拠点については、グレープヒル、コロセアムに加えて中央スポーツ公園ができるので、結果的に3箇所を拠点として位置付けている。

吉田委員：図のなかに、「羽曳野」の言葉が出てこない。これでは、どこのまちの将来都市構造図かわからない。

吉川会長：図としてそのまま引用されたとき、確かに羽曳野市の将来都市構造図であることがわからない。その点についても留意して、図全体の修正をお願いする。

笠原委員：27頁に、「最適化」とあるが、最適化の語意を調べると、関数やプログラム、製造物などを最適な状況に近づけること、となっていて、数値最適化など、どちらかというとなら数学や電算関係で使われている単語のようである。基本構想においては、市民ニーズの変化や人口減少など、10年間で状況が変わってくるなかで、状態を修正してあるべき適正な状態にしていくことであるので、「適正化」の方がよいのではないのか。

嶋田委員：「最適化」の文章をみると、「人口減少社会に即した」とあり、人口減少社会を当然のものとして受け止め、それが「最適」なのだと言っている。一方、基本構想全体で言えば、人口減少・少子高齢化社会の克服に向けた人口目標を掲げている。計画として、いったいどっちのスタンスなのか、笠原委員が言われたように違和感がある。

吉川委員：人口減少社会自体は好ましくはないが、外部要因としてとらえないといけない。「適正化」にすれば、違和感が緩和されるか。

事務局：調べたところ、「最適化」については、「情報システムの最適化」等の用語で使われることはあるが、行政用語としてはあまり使われていないようである。それよりは、ご指摘のとおり「適正化」の方が、行政改革の用語としても一般的かもしれない。

吉川会長：もう一度、用語の意味合いについては確認していただきたいが、委員の意見としては、「適正化」の方が近いということで検討をお願いする。

大関委員：私も「適正化」がよいと思う。ただし、文章が人口減少社会に即することが前提となっているので、例えば、「人口減少社会の状況を踏まえた」というように、少し距離を置くような表現の方が好ましいのではないかなと思う。

塩野委員：行政の基本としてやらないといけないことはやらないといけないが、あまり欲張って書か

ない方がよい。機構改革やお金の使い方は難しい話なので、もっとスリムに書けばよい。

事務局：「最適化」については、ハード面の整備を特にイメージして書いている。人口が減少したときに、今ある施設をそのまま更新してよいのか、という問題があり、国からも公共施設の総合管理計画を策定するように言われている。公共施設の統廃合や、一つの拠点に複数の施設機能を集約化していく、といった取り組みを「ダウンサイジング」という文言で表現している。

塩野委員：小中学校なども、人口が減ってきたら統合させるということを書いているのか。だとしたら、そこまで言い切らない方がいいのではないか。

事務局：学校のあり方も含めている。一方で現在は保育園のニーズが高まっており、そういう市民ニーズの変化を踏まえて、施設の在り方を総合的に検討していくということである。「ダウンサイジング」という言い方は、そもそも「ダウン」しかイメージしてないように聞こえることが問題であるように思うので、「適正な施設管理」などに表現を見直したい。

内本委員：先日、文科省の研修を受けたが、小・中学校の一貫的な教育のあり方として、義務教育学校制度がスタートする。本市でも、埴生小・羽曳野中において、それをやろうとしているところ。少子化に対して、学校の方ではそういう縮小化・効率化の動きが確かにある。

吉川会長：小中一貫教育は、時代背景を受けた適正化の一例であろうと思う。「適正化」の説明は難しいところがあって、市民の立場で言えば、税金が増えるのはダメだが、かといって効率性だけを優先されて、市民サービスが低下するのも困る。要は、ここでの説明において、人口減少社会を錦の御旗にして、施設の統廃合を推進しようとしているのではないかととられるような書き方にならないようにしてほしい。

事務局：これまでの総合基本計画は、人口が増加する時代の計画であったが、今回初めて、人口が減少する時代の計画となる。その中で、減少の幅をできるだけ小さくしようというのが大きな目標であるので、「最適化」の文章が、「人口減少社会に即した」はおかしいので、表現は検討したい。少子高齢化が進めば、子どもたちの施設は若干減っていくかもしれないが、高齢者が増えれば、高齢者の施設は増やさないといけないかもしれない。

松井委員：統廃合などが、人口減少があるからといった言い訳に使わないようにだけしておかないといけない。

事務局：人口や世帯の増減の状況等ニーズに応じた、適切な施設が必要ということだと思う。

塩野委員：地域では、市民意識として1校区に1幼稚園であり、ふれあいネット雅びも14校区にあり、コミュニティづくりを進めている。小学校等が統合されるとなると、市民と行政の協働についても、形を変えた協働体制をつくっていかないといけない。市民ニーズの変化や人口減少社会という言葉を入れれば、混乱するのではないか。

松井委員：人口減少社会への対応については、10年かけて少しずつやっていかないといけない問題であろう。

事務局：人口が減少するという社会情勢に合わせて、ダウンサイジングによってコストを抑えるイメージで書いていたが、お話いただいた通り、その時々々のニーズにあわせて、施設の在り方を再構築していくという表現とすればよいかなと考えている。

奥田委員：細かい部分であるが、文章やニュアンスで、違和感あったところをお伝えする。まず、2頁目に「市民ニーズ」とあるが、「市民のニーズ」の方がよいのではないか。次に、4頁の（3）地域経済の低迷に、「また、若者の雇用対策は～地域経済の活性化が求められています。」は、主語と述語があっていないので、文章を再検討して欲しい。22頁に、「一部の施設に人が集中しても、その効果は限定的なものにとどまり」とあるが、どう解釈したらよいのか。23頁の『 』内のまちの将来像は、24頁同様、太字にしてはどうか。また、23、24頁の図の関係性はどうなっているのか。

松井委員：23頁のまちの将来像にボックスについては、24頁と合わせて、角をとってはどうか。

吉川会長：24頁のまちの将来像に向かう矢印が両方向の矢印となっており、23頁の図と異なる。24頁のまちの将来像はなくてもよいのではないか。

笠原委員：見開きで見たときに、整合性があるので、まちの将来像は残っても良いのではないか。

吉川会長：矢印の向きなどを議論しだすときりがないところもあるので、いろいろ出た意見を参考に、事務局で上手く修正をしてほしい。先ほどご指摘のあった4頁の「亘る」は、ひらがなの方がよいかと思う。

事務局：ご指摘があった22頁の「一部の施設に人が集中しても～」の表現は道の駅のにぎわいをイメージしており、多くの人を訪れているが、その効果が市域全体に広がっておらず、限定的であることを記載している。確かに分かりにくいかもしれないので、表現については再検討したい。

奥田委員：例えば、「各々の施設には人は訪れているが、その連携ができていない。」というような表現としてはどうか。うまくリンクできていない、ということをお願い。

吉川会長：道路の第一の目的は、人々の移動がうまくいくためのものであって、市民の利便性の向上であるはず。それでいうと、道の駅に集まっている人たちを古市駅に導くために道路を作るというのは、いかにも論理が小さくなってしまうので、連携の話くらいにとどめておく方がよいのではないか。「分散してしまっており」とあるが、人の流れはむしろ分散した方がよい。集中したら困るはずでは。

いろいろ出たが、委員の意見の趣旨は理解いただいていると思うので、事務局で上手く修正をしてほしい。このまとめ方については私の方で預かって、事務局と調整のうえ、答申するという形でよいか。

事務局：審議会は今日で最終なので、後日まとめたものを市長に答申することになる。今日の意見を含めた最終の調整については、例えばだが、会長と事務局で調整させていただき、一任させていただければと思うが、その形でよいか。

各委員：異議なし。

吉川会長：しっかりと務めたいと思うので、よろしく願います。それでは3つめの議題、答申書の案について。

《事務局より資料2答申書（案）について説明》

吉川会長：いろいろと議論してきたなかで、うまく4つにまとめられているが、追加で入れた方がよいなど、意見があればいただきたい。

塩野委員：3点目の表題が「選択と集中による基本計画の策定」とあるが、4点目の「成果指標の設定と適切な進捗管理」にも、「基本計画の策定にあたっては」とあり、両方、基本計画の策定について書かれているので、調整をされてはどうか。

事務局：3番の表題については、「選択と集中による事業の実施」に変更したい。

塩野委員：最後のところで、「その結果を定期的に市民に周知」とあるが、進行管理を定期的を実施することは難しい。除いた方がいいのではないか。

事務局：審議会から市長への答申の附帯意見なので、その表現は、お任せする形となる。

塩野委員：定期的といっても、1年なのか、2年なのかわからない。

事務局：事務局としては、1年ごとに進行管理を実施したいと考えている。

塩野委員：3～4年たたないと実績の評価はできない。ハードの部分は評価できるが、ソフトは地域によって状況が異なるため、評価点まで出すことはできないのではないか。あまり欲張らない方がよい。

吉川会長：附帯意見は、我々審議会の要望なので、その点はどうか。

塩野委員：やれるのであれば、やってほしい。それと、3点目、「効果的・効率的」とあるが、「確実・効率的に実施されたい」の方がよいのではないか。

吉川会長：前段に、「施策効果を十分に検討したうえで」とあり、効果という表現が二重になっているので、文章については検討していただきたい。進捗管理については、毎年実施して欲しいとまでは書かないが、定期的にやってほしいということは、審議会の意見として入れておいた方がよい。現行計画については、どのような進行管理を行っているのか。

事務局：毎年実施計画を策定し、事業の管理は行っているが、具体的な指標等を用いての進捗管理まではできていない。新しい総合基本計画では、成果指標を設定することで、その達成度を把握し、有効な進捗管理をすべきだと思っている。

笠原委員：進行管理を行うことは、市民側から見ると当然のことだと思うので、記載するべき。

塩野委員：市民に周知するとあるが、市民の代表は議会であり、まずは議会で説明したうえで、市民に広報していかないといけない。自分が経験してきたから言うが、進行管理を行うことは、行政としては大変である。

松井委員：答申にあたっては、ハードルは高いところに設定したうえで、実際に進めるときには、その都度議会でもしっかりと議論していきたい。

吉川会長：審議会としては、あるべき姿をここで示し、それに向けて最大限の努力をして頑張っただければと思う。役所の仕事は定量的な評価になじまないところもあり、すべてに指標を設定することは大変だと理解するが、審議会として、可能な限りはしてほしいという要望を出したい。

嶋田委員：審議会を5回続けてきて、いろいろな方の意見が聞けてよかった。大学の先生方からも多くの意見をいただき、大変勉強になった。そういう意味で言えば、この答申書（案）は、項目的にはこれでよいと思うが、言葉づかいがあまりにも役所が書いたような文章であり、できれば吉川先生自らの言葉で、会長の想いを書いていただければと思う。

吉川会長：発信者として会長名を書いていただいているので、そこは責任を持って、想いを深めさせ

ていただきたいと思う。答申書（案）についても最終は会長預かりとさせていただきたい。  
大関委員：形式的な話で、1、2項目は1段落で書かれており、3、4項目は段落分けがされている。

文章の好みの問題だが、統一性があった方がよい。

吉川会長：今日の議事はこれで終了となるが、その他、何かあるか。

上田委員：この審議会には、市民ワーキング会議の代表として参加させていただいたので、1点お願いがある。総合基本計画ができあがれば、冊子になると思うが、市民ワーキング会議参加者にも送付をお願いしたい。

吉川会長：ぜひお願いする。総合基本計画は全戸配布となるのか。また、概要版は作成するのか。

事務局：全戸配布の予定はないが、ホームページを通じて広く発信する。概要版については作成する予定。

木村副会長：第5回まで、たくさんの意見をいただいて、良いものが出来たと思う。吉川会長には、まだ答申書のとりまとめがあるが、引き続きお願いする。

事務局：2月1日に吉川会長より、市長へ答申していただく。これからこの基本構想に基づき、基本計画や個別計画を策定していくことになるが、本審議会でもいただいた具体的な意見も踏まえて、市の施策に反映できるものは反映していきたいと考えている。

(4) 閉会

以上